

説教要旨「人間をとる漁師に」



マルコによる福音書 1章14～20節

洗礼者ヨハネは、ヘロデの罪を指摘し、非難したため捕えられました。そのヨハネに取って代わるようなタイミングで、イエス様は活動をはじめました。しかし、洗礼者ヨハネとイエス様との活動には明確に違う点があります。洗礼者ヨハネは、荒れ野に人々がやってくるのを待っていました。対してイエス様は待つのではなく、人々の生活する場所に、自ら出かけて行って声をかけられたのです。最初にその声をかけられたのが、シモンとアンデレという兄弟、そしてヤコブとヨハネという2組の兄弟たちでした。イエス様は彼らのことを「御覧になり」、それから彼らに声をかけます。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(17節)と。

シモンとアンデレ、またヤコブとヨハネは、自ら求めて、荒れ野に出掛けて行って悔い改めの洗礼を受けたのではなく、彼らが生活する場所にイエス様の方からやってきて、彼らのことをご覧になって招いておられるということです。イエス様が彼らの何をご覧になって選ばれたのかは分かりませんが、誰でもいいから声をかけたのではなく、それがシモンとアンデレであり、ヤコブとヨハネであったからこそ彼らに声をかけられたのです。「わたしについてきなさい。あなたこそが必要なのだ」と。

イエス様の方からわたしたちの所にやってきて、日々の生活に追われているわたしたちを招いて下さいます。突然来られてもこっちにも都合が…などと考える必要はありません。イエス様は、そして神さまは、わたしたちのことをしっかりとご覧になって、わたしたちの悩みや苦しみ、置かれている立場、すべてを分かった上で招いてくださるのです。なにも身構える必要はありません。その時には全てを主が整えてくださいます。ですから、今わたしたち一人一人をこの礼拝へと招き、わたしたちのことをしっかり見つめつつ、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と語りかけて下さるイエス様に信頼し、自分の体を、人生を、主に委ね、主につき従って歩んでまいりましょう。

(2022・1・16 説教者：稲垣真実)